鳴海の全国ぶらり旅 帯広編

周平

札幌から列車で約2時間半。
広大な平野と農産物、酪農などで知られる
帯広市を訪ねました。

▲春日井部長より説明を受けました

当日朝まで雨の予報が出ていたのですが、着いてみるとすっきり快晴。普段の行いの良さがこういう時に役立ちますねー。

帯広駅に着くと、まりも製薬の春日井部長が迎えに来てくれていました。まりも製薬さんは、私どもの『蜂っ子ミネラル』と『蜂っ子オリーブ』の原料である霊芝とヤマブシタケを製造していただいているメーカーさんで、きのこ作り27年という信頼と実績をお持ちの会社です。

「やあ、ようこそいらっしゃいました。遠路はるばるお疲れさまです。しかし晴れて良かったですね。予報は雨だったのにね。今日は帯広の魅力をたっぷりご紹介しますよ。まずは私どもの会社でひと休みしましょう。」

昭和35年創業のまりもハイヤーを中心としたまりもグループは、現在まりもバスやまりも自動車、帯広ツバメ石油など、主に観光や運送関連の企業体として発展を続けています。そういったまりもグループの中でも、最近特に注目を浴びているのが、きのこ栽培と、栽培したきのこを使った健康食品の販売部門である『まりも農林』と『まりも製薬』です。

社長の海野和昇さんにお話を伺いました。

「うちはもともと観光や運送を主体とする会社だったんですが、創業者である現会長が今から27年前にもともと関心のあった、きのこ栽培を始めたんです。これがとても美味しいと評判になりまして、シイタケやシメジはもちろん、健康食品としても注目を集めているアガリクスや霊芝、ヤマブシタケなどの栽培も手掛けるようになったのです。完全無農薬や、地下水を汲み上げる天然水にこだ

▲小林工場長に、きのこの話を伺いました

▲お店の前で海野社長と

わっていることなどを理由に、全国から注文が殺到しているんですよ。」

現在は、シイタケ、シメジ、エリンギ、舞茸、雪の下、アガリクス・ブラゼイ・ムリル、ヤマブシタケ、霊芝、ハナビラタケ、タモギタケの10種類を栽培しているとのことでした。温度と湿度を徹底的に管理した栽培工場は、環境的にも衛生的にも素晴らしいものでした。ちょっと味見をさせていただいたアガリクスもとても美味しかったですよ。

栽培工場を出てから春日井部長のご厚意に甘え、次の目的地へ向かいました。

「私はこの近くの音更町の出身なんです。この十勝という地域は四季がとてもはっきりしていて平野が多いんですね。実家が農家なのでこうした自然いっぱいの中で育った私には、ここは最高の場所なんです。これから行く紫竹ガーデンというところは、この自然の良さを満喫できるし、この地域ならではの花がたくさんありますよ。」

18、000坪にも及ぶ広大な敷地に、2、500種以上の花々が咲き誇る紫竹ガーデンは1989年に「子供の頃の野原に咲いていたたくさんの野の花たちを自由に咲かせてあげたい」と、代表の紫竹さんが始めたものだそうです。

▲右はスタッフの青山です

季節ごとに表情を変えるという22にも及ぶゾーンは、本当に見事なものでした。北海道の野の花たちが活き活きと輝いて見えました。

お昼を過ぎて「そろそろお腹が空いてきたな。」と思ったところで、「近くに美味しいジンギスカ

▲美味しいジンギスカンをいただいた白樺さん

ンのお店があるんですよ。いかがですか？」と絶妙のタイミングで声をかけられました。

「いいですねー。」

向かった先は地元でも有名なジンギスカンの老舗『白樺』でした。以前から名前だけは聞いていたのですが、まさか今回のぶらり旅で立ち寄ることができるとは思ってもいませんでした。

「ウ、ウマイ!!」同行したスタッフの青山が叫びました。「ホントにウマイ！」つられて叫んでしまった私でしたが、本当に美味しかったですねー。芸能人もけっこういらっしゃるようで、お店の中にはたくさんのサインが飾られていました。

「帯広にはギネスブックに載ったものもあるんですよ。」といって案内していただいたのは、何と４００メートルもあるという木製のベンチでした。「長～い！」そして隣接している芝生の公園も「広～～～い！」この公園も８万㎡もあるそうです。いくら平野が多いといってもこんなに広い公園があるなんてビックリでした。

▲世界一長いベンチのギネス認定証

他にもたくさんの見所があり「鳴海さん、泊まっていかなきゃダメですよ。」と春日井部長に引き止めていただいたのですが、今回はここまでということにしておきましょう

澄んだ空気と広い大地、たくさんの自然に恵まれた帯広市。今回も素敵な出会いの旅となりました。

今回のぶらり旅はまりもグループさんにたいへんお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。